

## 29年間の宣教師生活を回顧して

牧野 直之

〈2004年4月12日、JOMA総会での講演を2回に分けて掲載します。〉

### 1. 序

このたび、宣教師として経験したことから語るようにということで、祈り、考えました。JOMAの関係者に何かお役にたてるようなことが話せるでしょうか。29年間、主のあわれみの中に守られ、支えられ、奉仕出来たことを感謝しつつ、話させていただきます。

私は1974年6月にOMFの宣教師として羽田を発ち、初めにシンガポールに行きました。シンガポールにあるOMFの新入宣教師研修所で2ヶ月間研修を受け、シンガポールから汽車で丸2日かかって、タイのバンコクに着いたのは9月の初めでした。それから1978年までが第1期、1978年～83年までは第2期、84年～87年までが第3期と、タイで13年間奉仕させていただきました。87年に辞令が出て、シンガポールにありまず新入宣教師研修所の所長になるようにということで、第3期は少し短縮して日本に戻り、半年だけ日本で過ごし、88

年4月にはシンガポールに転住しました。1993年末、日本の総主事になることになりましたので、日本に戻り、1994年2月に正式に総主事となりました。

日本をベースにして、日本人宣教師を送り出すこと、日本人宣教師をケアすること、国際OMFの中で日本人として、日本の教会としての意見を述べるという形での奉仕をして来ました。昨年一年遅れで定年退職いたしました。

### 2. 宣教師になる準備

宣教師になってみて気がついたことですが、神様は私の思いや意図していたこととは違った形で私を訓練し、様々な経験を通して私が宣教師になるための準備をして下さいました。

A. まず自分で0から働きを立ち上げるという訓練をして下さいました。

私は中学生の時救われ、クリスチャンになりました。聖書研究会の上級生のすすめで、教会に行くようになりました。私が行った教会は東京の都心の公の施設の部屋を借りて、宣教師がやっている開

拓教会でした。開拓教会で、その上アメリカ人の宣教師がやっていたから、私たち中学生や高校生にまで奉仕の場が沢山ありました。教会学校、青空子供集会、トラクト配布、天幕伝道、様々な経験をさせて頂きました。何もない所、誰もいないところから集会を始めること、クリスチャンが誰もいない所でトラクトを配り、天幕伝道をするということにも係らせて頂きました。

B. 様々な宣教師の人達に会う機会が与えられました。

私は東京で高校時代を過ごしました。HI-B.A という超教派の集会で、アメリカ人の宣教師に会いました。オズワルド・スミス、テモテ・ザオ、オズボーン、ジョン・R・ライスという海外からの伝道者の集会に出る機会にも恵まれました。その頃、日本から宣教に出て行くという人の証しも聞く機会がありました。大森先生、ラオスとバングラディッシュ（東パキスタン）に出て行ったグループがありました。

大学に入ってから、北海道で主にOMFの宣教師に会いました。イギリス人、カナダ人、オーストラリア人と、今まで会ったアメリカ人宣教師と随分雰囲気の違いの宣教師達でした。

このように様々な外国人のクリスチャンや宣教師たちと出会い、集会でお話を聞くことができ、私のクリスチャン世界は広がられました。

C. クラブ活動を通して物の無い生活を体験しました。

私は中学生の時に山岳部に入りました。夏山に入り、北アルプスを縦走する経験を通して、限られた水や食物で生きるコツを学びました。高校生の時はサッカー部、大学時代は陸上競技部に入り、合宿生活を通して様々な性格の人と一緒に暮らすコツ、大部屋の中で個人デボーションを持つこ

とや、汚い環境の中で生きること、寝ることを体験しました。これは後にタイの田舎での伝道旅行や、タイの学生との伝道旅行で役に立ちました。

D. Hi-B.A、KGK そして後にHi-B.Aのスタッフとして働いたことにより、超教派団体と教派教会のことを学ぶことができました。

高校生の時、大学生の時に超教派の集会で活発に活動しましたので、自分の属している教会と全然違う教会があることを知り、又、別の教会の友達ができました。後にHi-B.A スタッフとして奉仕させて頂き、様々な教会を訪問させて頂き、各教団教派の特徴を知ることができました。これは後にOMFという超教派宣教団体に働くのにとっても役立ちました。更に宣教地で出会った色々な教会の形式形態に柔軟に対応することができました。

E. 多様性への柔軟な対応

日本での超教派団体での経験は、アジアの多様性への良い準備になりました。私はシンガポールに出来たばかりの神学塾みたいな Discipleship Training Centre という小さな神学校に導かれ、学びました。

この学校は大学卒業生しか受け入れない学校です。大学卒業生なんて日本にはザラにいますから、私は大学卒業生であるなんて意識したことはあまりありませんでした。しかし今から35年前、アジア諸国には大学の数も少なく、卒業生は英語で Graduate と言いますが、一目置かれていました。彼らは国を背負って立つエリートで、人々から尊敬され、期待されている人達です。アジア人のそのような人達と一緒に生活し、勉強することになったのです。英語で学んだ訳ですが、日本人以外は英語で教育を受けて来た秀才達です。使う英語が違うのです。書く英語がとて

も立派なのです。彼らの多くは上流家庭から来ていましたから、お手伝いさんのいる家で育ったのです。勉強はすごいのですが、日常生活のこととなるとカラキシダメという人が多いのです。

その当時、シンガポールは今のようにはクリスチャンが多くはありませんでした。それでも英語の統治下時代から、聖公会の教会、メソジスト教会、そしてプレズレンの教会がとても活発でした。その上、英語だけではなく中国語教会、タミール語を使う教会もありました。教会の形式、形態の多様性は日本の比ではありませんでした。このような海外の文化的、キリスト教的多様性を知り、受け入れることの大切さを神学生時代に体験しました。

#### F. OMF 宣教師たちとの出会い

神学生時代、毎週火曜日の夜 OMF 国際本部で開かれた祈禱会に出席しました。多くの人々が集まり、熱心に祈る姿に感動し、教えられました。毎回宣教地からの報告や祈りの課題が知らされ、祈りました。こうして私はアジア各地の霊的必要性を知り、理解するようになりました。私が神学生時代には OMF の総裁はかつて日本で働いていたマイケル・グリフィス先生でした。グリフィス先生をはじめ、世界宣教で用いられている先生達がシンガポールに来られ、講演会や宣教集会がよく開かれました。

私は日本にいる時も、積極的にこのような集会に出ましたが、日本ではほとんどの場合、北米から講師がやって来ていました。日本では福音派の教師はアメリカから、リベラルの教師はドイツから、といった感じでした。

しかし、シンガポールではアメリカ人だけではなく、イギリス人、又インドからの講師も、中国人の講師もやって来て講演されました。

このような様々な宣教師やリーダー達

との出会いは、アメリカ一辺倒になりがちであった私の幅を広げてくれました。

#### G. 開拓伝道の経験

神学校を卒業し、日本に戻って来ました。OMF に志願した所、OMF 日本委員会はまず、OMF の宣教師の働きを手伝う形で開拓伝道をするようにと指導して下さいました。そこで、札幌に行き、郊外で働いていたミリガン宣教師のお手伝いをさせて頂きました。

ところが日本委員会と OMF の宣教師との連絡が充分でなかったのでしょうか。8 人位の群れであったその開拓教会にとって、私が来ることは寝耳に水。何の準備も、いや了承もありませんでした。そこで私は一信徒としてその教会（町内会館で集っていました）に出席し、8 人の信徒との交わりを深め、伝道者として受け入れてもらう努力をしました。初めは説教する機会も与えられませんが、金銭的サポートもありませんでした。私は生活のために小さな仕事をしながら毎日訪問伝道をし、日曜日にその 8 人と宣教師と交わりをしていきました。この経験は後でタイで随分役立ちました。ある大学生のグループは私たちを受け入れないというようなことが起こったのです。

教会堂がなくても伝道ができるということも学びました。お金もなく、本当に貧しかったのですが、ハドソン・テラーやジョージ・ミューラーと同じく、人にアピールするのではなく、祈って神様が人々の心を動かし、私の日々の糧を与えて下さることを体験できたことも、OMF の宣教師になるよい準備となりました。札幌市の北部で働いていましたが、札幌の福音派の諸教会の牧師会にも出させて頂きました。この時交わらせて頂いた先生方が、私たちのことを祈って支えて下さったことも感謝なことでした。

(次号につづく)

## フィリピンへの再赴任

福田 崇

フィリピンは私たち家族が1976年から1988年まで奉仕した地です。山奥で聖書翻訳に従事していた私たちは、フィリピンの教会の動きはほとんど知りませんでした。1974年のローザンヌ会議に参加した指導者たちが、福音に生き、福音を全土に伝える新たな決意をもってDAWN（全民族福音化運動）の動きを1975年にスタートさせました。5千教会であるのを、すべての集落5万に開拓する。2000人の宣教師を派遣する。これらの目標を持って動き出しましたが、2000年の段階では、教会数が5万5千と超過達成していました。しかし「すべての」と言う点では、イスラム100%の集落もミンダナオ島には多く、達成できませんでした。そこで目標を設定しなおし、2010年までに「すべての」集落に教会を開拓しようとしています。教会数では、10万の教会を目指しています。これは700人に一つの教会であり、フィリピンの隅々に、人の住んでいる所ではプロテスタント教会が存在することを意味します。

また宣教師の数では、2000年には2000人を超えていました。ある団体では、牧会経験5年以上の働き人を入学条件に、宣教師訓練学校を運営しています。半年の間に、600時間くらいの学びがあります。実際的な訓練もあります。5年ほどの間に、500人ほどの人が学びを修了し、そのうちこの団体からでも300人ほどが宣教師として派遣されています。これに加えて、400万人といわれる出稼ぎの人々を、証し人として訓練する働きもあります。通常では入国できないところで働いているフィリピン人が多くおり、宣教師としての自覚と実際的な伝道訓練を受けて出稼ぎに行くように勧められています。

1975年は、マルコス大統領による独裁政治が始まって10年が経っている時でした。ローザンヌ宣言で言われている社会に対するキリスト者の責任を自覚し、正しい選挙が行われるために選挙の監視人として奉仕する人が多く出ました。その中で殺される牧師・教会役員が多く出ました。上記の福音の進展はそのような悲しみを乗り越えての働きでした。そのような中から、フィリピンのクリスチャンは自主的に動く事を身につけていきました。近所の人と、周りの人のために祈る時を持ちたり、だれに言われるでもなく動きます。JOMAに当たる団体はPMA（Philippine Missions Association）と言い、150ほどの団体が属しています。PMAは、JOMAと同じようにPCEC（フィリピン福音同盟）に属しています。違うのは、PMAにはフルタイムの総主事と20名ほどのスタッフ、二階建ての大きな事務所を持っていることです。これらの総主事・スタッフは全員、給与ベースでなく、自らも宣教師の自覚で、サポートされています。各宣教団体独自でできないこと、またしない方がよいこと、たとえば宣教一般の啓蒙の教材の作成・出版、各種セミナーの開催などを実施しています。それにより、より幅の広い、深みのある取り組みがなされています。ため息が出ますが、日本の教会の宣教の働きのためにも祈っていききたいと思います。

フィリピンのマニラにあります、国際ウィクリフ聖書翻訳協会の事務所での働きが始まります。私は、アジア・太平洋地区総主事としての奉仕です。事務局長もいますので、私がいつもマニラの事務所にいるわけではありません。あちこちに出没します。当面は日本をベースに動きます。しかし、古巣のフィリピンと再びつながりが出来ることに感謝しています。



## 加盟団体紹介

### アジア宣教協力会 (ASK)

齊藤清次

アジア宣教協力会は沖縄から海外への宣教の働きを支援するために設立され、インドネシアおよび米国日系人伝道のために宣教師を送り、アジア各地の宣教師を訪問するツアーを行ない、また宣教師訓練セミナーを開催してきました。

さらにロシア・シベリアからの女医3名を研修のためにオリブ山病院に受け入れました。現時点では独自の宣教師を海外には派遣しておりませんが、現在の活動としては、既存の宣教団体をとおしての海外宣教支援と短期海外宣教奉仕の働きに関わっています。具体的にはロシア・シベリアにおける医療宣教（オリブ山診療所）、日曜学校給食、シベリアからのユダヤ人帰還、中国への聖書配布、タイ・チェンマイにおける山地族・AIDSの少女、アメリカ・オレゴン州ポートランド日本めぐみ聖書教会の日系人伝道、モンゴルのストリートチルドレンなどの働きを支援しています。また2004年1月にはインドネシア福音改革派神学校(S.T.T.R.I.I.)へ短期講師を沖縄から派遣します。これらの働きをとおして、一人ひとりのクリスチャンが海外宣教に目を向け、キリストの大宣教命令に主体的に関わっていけるような機会を提供することを目指しています。母団体の沖縄福音伝道会の広報誌「沖縄教会情報」をとおして、また支援している宣教団体のレポートを用いて、世界の宣教の現状を会員をはじめ多くの方々に知っていただくように努力し、そのような働きをとおして具体的な祈りと献金をささげる方がさらに増し加えられるように願っています。これからの課題として、主の再臨が間近に迫っている今日、聖書的な視点か

ら世界情勢を正しく把握し、「神のことに混ぜ物をして売るようなことはせず、真心から、また神によって、神の御前でキリストにあって語る」（監コリント2章17節）おとが出来るとような働きを援助し、また自らなしていきたくいと、神の助けを祈るものです。

(文責 国内宣教師 田頭真一)

## 宣教きゃんぷ みっしょんぽっしぶる

世界の料理を作って食べたり……  
 宣教地での必要を知ったり……  
 異文化宣教に興味はあっても、  
 次の一歩がわからない……とか  
 同じ志の人と出会いたい!……とか  
 自分の思いを聞いてほしい!……とか  
 君の気持ちに応えます  
 海外奉仕に興味、関心を持っている君  
 の参加を待っています

日 時:2004年7月26日(月) 16時  
 ~31日(土) 13時

場 所:聖書宣教会  
 (東京都羽村市JR小作駅徒歩20分)

費 用:申込金5,000円+参加費25,000円  
 =30,000円

申 込:日本ウイクリフ聖書翻訳協会  
 03-3313-5029まで

## 2004 年度役員紹介

- 会 長：池原三善（基督兄弟団）  
副 会 長：松下和弘（LMI世界宣教会）  
書 記：蔦田康毅（イムマヌエル総合伝道団）  
会 計：酒井信也（OM日本）  
JEA 担当：永井敏夫（日本ウイクリフ聖書翻訳協会）  
オブザーバー：具志堅聖（JEA）



写真上段左から 具志堅・酒井・永井・蔦田  
下段左から 坂庭（事務局）・池原・松下



発 行：海外宣教連絡協力会  
発 行 者：池原 三善  
住 所：244-0842  
横浜市栄区飯島町2441-10  
Tel.045-891-7769  
Fax.045-894-2121  
e-mail hongodaioffice@yahoo.co.jp  
郵便振替：海外宣教連絡協力会  
00160-7-106631